



平家物語巻之二目録

三
やうほうくまんらやうの事

山つのおくしやうやうの事

だんものおぼとくしやうの事

やうの事

まんくまんやまの事

ろふの事

中へまはらとていふの事

だんものおぼとくしやうの事

せうまやうの事

ありまうの事

しゆびくまんそうの事



修しつぎの事
ままつとのくきめさんあれたる
さらぬひのゆく事
法王御所のひとあはてうへくらく
あくらんがひるうたきいの事

平家物語巻之三

三宅氏

やうほうはくまんらやうの事
治承二年正月一日多ふことあてうもいとこ
それ回日てうさんりまやうのりありてなふ事
もまといふことさるるをたのまを去年の
川新太細きなりらめれつ下さんし西の人
外むくのんのともうたよつこたまたね
しあもれしは皇御ふとておやませ
ふたす是りしをてせれあまうりあ
のうくおのりてはむようすそ
たいしやうれ入るもゆえつれはま
ちそそとうしあめたさあ
おのりひま

うへもさうしかならやうなれどもさういふさじふう
いつのまじくふりとらひふのそそびうしりこち
福うほうわうきささうあ三井ちりこうらん増正
頭志もんとしてちんあんのひやうぬてんちゆ
あさんさうしうれさあてありまう大目録そと
川地録あんわうちやうきやうは三井いさやう
頭志んちゆありて同ささ目やりて三井あま
て清くらんちやうあふしとれんきうしん山門
の大流ちかきんつみん張つてさうく清しゆら
いらまんちやう張を扱しとてとけう張つふし
きせんふるり中しんも山五井あまうをさゆの
とまんちやうのためや志うるを今度三井ちりま

とけう張つふしんつ、あしちやうちとやまのしん
あしんそりりるは室と海くよあうらへん
それともまじれ山の太流あんせんもつくは
まじりしほうまさとさふもまじりしは室と海
やくなりしてはあまやうりちんせんしてぬら
じらちうりるしんを思ふとくまらぬぬひをり
されやも清あんいなりたれきうりけんまじり
うとめして天皇ちる泡湯あまりあまうは室と
くさをぬひてのめぬのぬさりてあまじりあま
かあしめ佛住さし志まのまじらしてそまんち
くりんちやうやまけさせぬひりるわうまうをさ
じらんれちうとくまのめさあたままんちりあ

一、三井ちよしの湯くりんりやうの湯るり紙を
 おかしのめくまくまうせめひなりたれとも
 山門のゆきやうやうやう志のうつせんはる
 山門まきく志やうたう志のわひさうしく
 且つれ事一むきやうのせんともくまふか
 やうくくまうちまうたれ山門のめめく
 うのれ事大事一ともみまう志とやうく
 志やうのめくひひひらまう志のなう
 まりまもやもやらうらんは師はまもなりま
 じの志の院れますりまらんうらうやうら
 らんのうれまらうまらうんしてひ志と
 まらひひうれまらうまらうまらうまらう

一、三井ちよしの湯くりんりやうの湯るり紙を
 おかしのめくまくまうせめひなりたれとも
 山門のゆきやうやうやう志のうつせんはる
 山門まきく志やうたう志のわひさうしく
 且つれ事一むきやうのせんともくまふか
 やうくくまうちまうたれ山門のめめく
 うのれ事大事一ともみまう志とやうく
 志やうのめくひひひらまう志のなう
 まりまもやもやらうらんは師はまもなりま
 じの志の院れますりまらんうらうやうら
 らんのうれまらうまらうんしてひ志と
 まらひひうれまらうまらうまらうまらう

もはたしゆくらんらんはわうす子す死までわう
つこつれちやう子とよせうり大志の今夜をさ
つここと思ひたれやも大志ゆきくりんらじとあ
きたてらんらん又くまんらんや大しゆときたて
むとせし福も答なりひしくむくよまりて今夜
のいこささもけつしくいもなりあたるたうあゆ
あひぐらふともあわのあくたうとPを志よあくせ
たう乃せのふうかうたうさんうくついでうくらや
うくまんちしやううしやうあやうあられやうし
らまれも命も押しきつせあさうふよ大志ゆ
まんらんうすとぼくしやうしきさふりきまう
たれものく人へますしくこもくなりきん人そい

よしくよもくならうらうらたれまのうもふも
びいよしくわれもてく十二せんちゆれわうも志
ちうのそのまよまれなりた子くのううまんま
めつしてううしくのめほもたいてんま志ゆあ
れゆと球ちりさきんのゆり新ひなりくせつと空け
うす河の泰のたきよやうす三たひうとまのあが
の舟とらもまて三面よといのが川とりのとつくと
たんとなく六河ゆらんれわうのちふとたえや
しとらんたうしやううひ包て三ちうのわが
るせせいりの肉ふうしとみれうとやうびら
うおひてく空うんれうのき球とらみのるすう
あたりとそれのうをきゆわと見れめのわらうと

まのぎてきんようとうをさるにうんば一板の丹
ともし火取くあてのさのひまふりきりあつ
けさお病をたれきまんとそのよそがひとろよ
うやんばを天らくの佛まふとさうふよる佛れ
たりややふれひーさをんーやうちや竹さんーや
うーやまひことくおん日ーのたう母とげーち
をこらうのすんるあれこころつす人のをや
のこ取らんくわはふはたそて葉のさあ。く
たれつ大初ん下せうれうさももこあのとひし
てつこあふぬちんたんもてん多うんふふ
ふうくしちまきんちもけはさらうまふわとすく
あまとして、大小せうれやうそんもあつうとす

やうらぬらん我てうつこまうとものたうんうも
ひのまをのさとなくへてつらうーの世一板の内よ
けりひつく天くれすみやもわりよ。りはんこの
七太ちもふはを東太あうゆくやうま乃外を力こ
まるたうさうまねなりハーうんちうもあたた
てかひあうころむ二とうのがうしのことまればつ
まねやされやもあーとやびこまうとほるてん
さい川佛法を海取の今よまよひくみかほあひぬ
取すうとひある人々のなういふと云事。た
まさんまけらううのちーまやうとらりけんあ
まいうのけーらみあつそつふはまう
うれまあーわりらそこのひまうあて

人かまふ。そのまゝのまじりし。しり
てんけの太所たうさんちうさうのじうしめめく
たうさんちうさんちうさんちうのじうしめめく
さんちうさんちうさんちうのじうしめめく
やんちうさんちうさんちうのじうしめめく
となふれし。そもさす。郊外すい。こやく。ふれなれ
こと。ぬい。さく。ぬれ。く。く。く。人。の。ち。う。あ。き。れ。う。た。の
き。う。と。さ。ひ。と。と。め。な。し。の。み。そ。あ。り。り。さ。れ。と。お
れ。文。人。の。ち。う。あ。き。れ。く。く。く。う。の。ひ。の。ひ。の。ひ。
り。ん。と。て。し。ぬ。け。る。れ。た。て。し。う。す。と。の。ひ。の。ひ。の。ひ。
の。ぢ。ん。光。ち。と。う。ん。ゆ。う。三。月。十。三。日。お。も。ん。志。や。う
れ。ま。の。め。り。あ。の。は。よ。ら。ん。と。か。を。さ。す。か。て。ん。ち。う。く

ひしやうさうさうさうさうさうのうくひやうおありて人
みんなし。く。く。か。あ。ひ。し。や。ま。ひ。し。や。ま。あ。く。れ。め
う。い。ち。や。う。し。や。志。や。く。う。し。も。く。れ。ん。海。心。と。ひ。と
川。み。し。く。志。び。ぬ。だ。ん。あ。ん。う。し。い。う。の。志。の。う。海
一。ち。や。く。志。の。う。ん。れ。み。の。三。と。ん。志。び。ぬ。だ。ん。の。志
一。の。ま。い。ぬ。う。や。さん。れ。ぬ。ぬ。ほう。と。う。せ。ん。れ。い。し。し
三。ま。こ。だ。し。て。か。て。ん。ち。う。く。う。さ。み。面。さ。い。面。さ。い
あ。く。ま。し。一。か。よ。年。し。を。ぬ。抜。て。う。う。う。ゆ。い。た。と。う
海。ま。お。ほ。の。と。ふ。な。ん。と。の。あ。り。ぬ。よ。し。と。志。の。う。く
を。ら。ら。ひ。お。ひ。し。と。お。か。え。の。あ。つ。ふ。人。あ。ん。た。よ
こ。う。の。志。と。う。ま。り。て。志。の。う。く。う。み。の。ち。れ。
お。り。お。あ。ん。ち。う。し。な。ま。し。ぬ。ぬ。の。う。あ。ま。し。て。さ。す。と。ふ

又百十ノ年一なり可くめてたりつらきいぬわれ
い志やもほすめわたつてこしくをうろひう集
れ何一あ一けりる一うあさあ一なれ
なんもめせう志やうも一あふとつてくまの
さんそうふやうの事
さる福ふさうのり志まれ人せくさこのすま
こつ志れ志の命さ事やうしとと押一びつがよ
さあし許やもたしんこのおおれ志うにるいさ
しやうれりきり力志よ事やうひきん此國のさの
志やうもつこ志よく成つてのよとくられたる事
志ゆんくさうしもやととまのいのりいさそへん
ししる中一もお將をさうり入るさりとも

くふれ志んしんの人よしむらもあふつうも
しとさう志の胸うくまれ三ふあんらんを
けんしやうしをりてさらくのるうとわれら
やとあもれたるよ志のじらまんをりこさんう
うまりけりる人あ志んの人よとさんうは
さもわりなんとしとれふと志んせさりたり二
人をおさしひまし志まれうちとまけさくまのよ
おさるふやあるやれつての事れうととくあさん
たうのたもなるさこうきんとうれよそがひ志ふ
くおあさひをうんうれあや一さありるふられ
うのつあことむら一山のたきまのこちち外よ
ことなれをくれうりみれみとのそめいひま

しくとせらるものなきもあやりのなきもやくみく
こつやうがたじとよくあはれもぢらやうめむと
庭うのれびとのれたんのとくとつりけりてあん
庭うの專のけとまきのつたうおりのひえりませれ
まふ張り物にみまをまふごんくのつりごら中
まふごんぐせれのまじりまふみまきりあちたりたき
れとこしつふをあちこく松林のときさひもる風を
ひまうあんらん乃おほいまふ。なられはやふらう
さもよだりたりおこしやりてうととそあちさん
とようおつげたれののみ縁をらんくうけ思縁を
あんまう思あうれまじりしりのわらうやまじり
くのかりとほまをそまきまげらなりこくあん

らんあんのつりまじりしりまらる今寝るやこへつあ
しり入るあらんこひりまきのあのみせらんこく
まの二とこのあひかそつれられたるあんけんも
つのもつれやあんのつりまらんはつてほもり
てつらうつりまもあう思もあれはあきのあも
とあまのあひふりあれり一のながれあいなり
りやああのまきののたとびあはくらあつおはく
とそくもあんとあひあつりまじりあはくさもあ
のみあもあひふりあつりあひあつりあつりあ
と思ひはあつりあひあつりあつりあつりあ
思あつりあひあつりあつりあつりあつりあ
てまはりもあはれもあつりあつりあつりあ

おぼく判取入るせうしやうてんのかあまてつ
おぼくせうしやうちやうてんのかあまてつ

あまのわたるさかんれれとの所井てそ後取二年は
ちのえりぬ舟乃りひや十日のりせそ二面
又十日のりぬ舟乃りひや十日のりせそ二面
もびくちまきかく日廿一丈二尺二寸五分
三尺五寸五分五分五分五分五分五分五分
うこやううのひろまうてんししれおせ
ちゆうせんゆらほの物居まりつひちやみちや
うせうらうせうしやうちやうのまこせうし
ちゆうらうせうしやうちやうのまこせうし
めしてせうしやうちやうのまこせうし

あまのわたるさかんれれとの所井てそ後取二年は
ちのえりぬ舟乃りひや十日のりせそ二面
又十日のりぬ舟乃りひや十日のりせそ二面
もびくちまきかく日廿一丈二尺二寸五分
三尺五寸五分五分五分五分五分五分五分
うこやううのひろまうてんししれおせ
ちゆうせんゆらほの物居まりつひちやみちや
うせうらうせうしやうちやうのまこせうし
ちゆうらうせうしやうちやうのまこせうし
めしてせうしやうちやうのまこせうし

をなかりんおううこのひんすめいみんなのせまら
そりくも思ねめたりふ城をちんくこのたりき
おたへへまいくさたふれあうふ城をくせく
のぬらきにかうらみくもと日あてのかりあをち
れさすらう城まぬくやれけんこのます
ひさいつしりのゆをさすなら人のみらるる
もんめんまんわいとくとあふうすびやなんうの
けしすか頭ゆうもんれあひよるうーうんのと
まぬうしくんせうちやうたうんひひまうたが
さうちやうきんちひのゆあまうりとうらうさ
とーらのゆみく城ありたてまねくうせにれたん
ひいとちらんを日これうんあひのゆのひみんなと

一れうんーとかうちのとかうもしくびとあ
いやはたのこやうちよこじらんをよとのしくま
おとさうひてうんじのえ生とみらひまうりそじ
えんらんれいそくうんためせほうーやうあ
ひれまえう城くハ方望子れひらととやほあ
うらよあやうまよまらーやくのらとーあひさく
六たう三りの城りふくうを流るりよてらやうに
うやこのうてんくちやうーしゆくちやうとあ
れらふとーそてとつと流るいもくとはくこ
とまいてんひんかーうんまゆりあもとうさ
とゆとくくさうさうあさけてまちんてんの中
とうはあーちんしんゆとまあーてまもあが

けいよきくをたりちんてんきんぎやうらんをとれぬ
しりくまんをんこうしやうせうらんてんぎのていひ
将りしんくわ十二系らんせんてんてんくわんぎやうの
つしんきんぎやうをけうらんてんてんてんてんてん
しやうきんぎやうのしんぎやうをけうらんてんてん
さらくのめんらんてんてんてんてんてんてんてん
けいよきくをたりちんてんてんてんてんてんてん
けんぎのけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ
しんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ
人乃神のうんまかりてんてんてんてんてんてん
つてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
しんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ
しんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

くわんてんてんてんてんてん

ちんぎやうせんてんてんてんてんてん

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

けんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎけんぎ

アんうたふのむく河ほーをてりふせ川原うりまをう
せうーのりるそれるーの清きんの掃切ん味き子と
ゆせんらん月をびらうーますうらんそ二十八日
さゆのそ一なれそあしめして清原うりうーとさらん
とたのもーつとーしーまーともあり
もんらんやまぶらうー入るーこのる
判取へるをあまりお部のまひーきのせのいすま
まおよげんわつとまをけくつあーのりんことの
まのいもうねんうーをらつんぬう月日とさ取し
とんよまき二首の方とそりふはまきなる
うらまのいこまふれこーあうーもまありと
おやーもはまきよへへのーかつせ

おりのみやまきとけーと思よさひたおも
うらまのいこまふれこーあうーもまありと
是とうーふりちてつて目だれつくとあーとうー
なびまのやうらやうらいいんてんたいまやくあ
ひらう味祿とうーやうらんまゆまよ大の祿と
ままたのそとけりなまゆや三ーよめんらんう
つらまうとまうまてとあまれみとこれのひは中
よ一ななりともよこまやうをほく入う幾ふんら
おーしてれまのそくたこのよきてそりぬれたひ
いそよそとまうとまうとまうとまうとまうとま
くらうのいよまとまうとまうとまうとまうとま
いそよまのいよまとまうとまうとまうとまうとま

これこそとてさういふ事ありよらんえちしういぬりたむと
くらせれはけりまうらん子ゆんろうやとものなりお
もるくやハるの志がち証ゆられさすてあふれい
ほくさまのや一ろ乃海せんのがさあるうらよ世
たりまう判友入るのゆるりありたるまう都と
つてせんやうさう志ゆさやう志けりさのあつ時い
ほくこししまふあり一やたんれをうとれりまた
てまうつるさうむもさういもまきふつれをハ結の海
らんをさうさうをさうさう百ハ十るのらまといらうあ
こしやさうさうみよれさうあはふて志がのみら
ひ小舟うまびとがれさすこさやあさのらとあう
らのくらといらうのさの海りさいにいれまてこ

とこさうとてれまれさうとがれひくとさささ夜の夜
なれとほせんのがさあらふさもうさくされまらま
うとさうらのさう一やとあいつれさくさうさ
まうりさや一せやもつりなれさうの海りささこ
や小ういもんのつらをいよらん海をびとさうせ海
あうとて海りんらさあやんさうれつの子まれさ
しやうさうさうわりのさうこの海むとあたいらう
さうさういさうさうさうさうさうさうさうさうさ
とこさういさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

まじくして口におれしおまのやーまじくつぎなうさ
だこののさく判友入るの志まさまりきんしし
そまつしきまさみつあたれしなこもつうも
あつれまあさやりみしたりたれ山徳あ
それまおもひくおひのこくほつまあ部よりり
てのかり判友入ううのこく一糸のあひうそれれ
のつしし志れひくひたるふさうせたりあれしら
うがあのをやまさとつてさらまびそともしりま
あーのこつもゆられゆりてあまーみ是まてけ
たのまさと二交とのままよまらるるうよまし後
ししせいひたれあさうしきならそれー時のま
れも今さうあのをそやましえひんうまこいこく思

ひさ海さりひらまおのふあいせんうーまうひて
ほうまうあのをさやあめーてあしんありあれ
ひうんやあまうまいあしううー海ああふ
こつとてまうりんう海まふあうあつりす
まほうりのあまこれとへまくらせまししま
とたりあれしおとくせんりんお見せまられたり
へるまやうあくもらまのりしまはうしそあまれ
けい。うまももれたれまは京中ー乃上下あや
のここのまののつおいこまうまやままら入る
の二志ののさうてらりまを海ぬまがらうまわりつ
まれりこり人まろままうくれゆく丹とおりひ
山おへのあり人をあーるうたつと有。あたりを

みより此の神を以てそま乃思ひとほり三三の
神をまきたてて置く事そまのそののみこと
三十一とてきりけりめはつるまはつるも
あのをんついでつたは色いさんとりて面か方の
思ひとれみ子ほんまをれそともなれしこころを
ちつさくらもありあめさつまのこころを都まてはた
つりたるこころをいふるれあまりつる思ふ事
うやうやうとてあつるま

ひりつるんてこの口をくきとせめられし
何一つもさうともや物軍十百もれとつるあ
るじりよふりりよこあくのいさよとつる

さうたつるいふてほてなくとひあたまれ
おふりつるにふと將軍十六とて成なるの
つるまのいふて三十三とてあひつる
こころをくきとてあつる今あつるのいさ
さうつるよふりりいさつるあつる
とつるあつるいさつるあつる
とつるあつるいさつるあつる
つるあつるいさつるあつる
てひあつるあつるいさつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつる

うのいゝくさましくーてこあく福なくの留れよあ
こそあそとまらまうやの中ーくらたつひおとあ
ここまきなう十九年のせいのちうとくくらりと
まこ十のちかーあやうんまう百つこのちれ外うら二
こひまうつまうりりおつちりされまらこーあま
あーんまよとけああけのいどしーんませりり
のんのろふさーよとらとみけまてまうつこま
くらあんとらめとまらこちかたれらうま
まのせてこまやうおけたふのまこのまのくしら
れーこーのまよらまらうやまのちもてのこま
のうこーんへりんとら懸ありんとらりさこた代
あまをま代りのひしるこつてせまのりれま

あせらしつけれもつツすあまれまりしし
いせまり

中ー交はらこいめんりり
さるほいーたのまらうりへる乃才二のひとめ
中ーまこやわらうせぬひりこの治政二年のまの
あまをけあうこそものうへあめりとこれこ
まなううん平家の人こまおあまあまれらり
つはこまをけくーあんやうまゆいとまこめ
よちお酒まゆまやうとこかまれまよーあふら
ひるいをまられまられまらうたくーもあまは
まこいんとまらうあまらうまらうまらう
つあまらまらまらひまらまらまらまらまら

きう女ニおなほせぬふじうもいまこむふう衆
わりすわうしとあまさしつうらららとつてた
しうましなとく今日う志清だんしやうおとの
あゝ慰うしやうなりと事とそやめれりま
あゝんしやうなりと事とそやめれりま
うこつひはしとまみしたりける志やう志ゆく
めがさうおつあてと清さんぬいあしさううわ
まうしやうがきてまじうとだん志やうとそ中
させ清ひりるおさうしと六月二日申しぬら
やくしありたのた大おひもりのおれし、
うはつしやうやくしとまきひる仁和寺のらや清
りらありらすれとや七ゆやくししゆわうなり

ひよしと志やうなりししゆほうととゆさうれけ
つとされを月つとさすふ志うひて清かたし
みくろしと志やうなりしとてこもいやく
まあしつと入さき清す清志んほうらとけな
らすひすのめしんあしと清のの上おとらせく
おもやと志やうを清ひと清と志やうたうたう見
えと志のうしんれと志志んのせうやうてん乃や
まひのゆいおしとたりれ慰うまひのまらま一と
乃志のめとおひゆうしゆましと志らよりく
まは志をもあならあしとふりもは清ゆくはしと
清さ清さりしとまけるおりゆし清ゆかきと志
ま入まうまう清らんしと志さうなりと志うまう

ひとりよめんやうとていつのたれも
とよくぬれ

たんとめのかゆまのやまよるえらくの事
つこくろるむりと尋てつおき見れれ宰おたりもり
れきやううりのれとくれゆももろくもくして中
されちるも中一交渉さんのはためえりさ海く
の滞りれまともゆ月ついつれと中世大社とを
えぐる事事しはちとさらんふもあてささうかつ
し海おゆなりつひれあうんさめつり魚これた
正はくしせんあんまうそつりこのはくかこ
されもれしおさうれまうくとさうりゆれ屋う
うりくひゆとつとてへをれ滞まへよおりてすさ

まひらもたんとめのかゆのこもささくまゆりあ
たのちおまけましされゆやあもぬひんよ思ひ
ゆ海よりおさりちりのさやうりささやうりた
められんりんくしはまてとつふてゆまりつひ
めつりおされたらんほい乃はささうりやつりて
うへまへのかあふとや絶え敷物つり滞りもり
らひしやう志の志人のうまへとつれぬさせぬ
もはさんぬいめんこう滞にし志やうあり
おのんの志いとまゆひくひうあはしな
まさ海おれされたりあれし入るさうも日あ
うこりもとやう滞りつり事外おたけり
ひとさしおぬれぬやうりぬるまこさんなれ

進小けつてして志ぬんくうんもあふらばうりしと
こいつおとの孫ひおれしされもいづまひひお
かすもの志よふらんやうもスリウーようい
れはしめ一人もい海うーのこいねんるり申えら
いあうれりしんんんんんんんんんんんんんんんん
いやくをそいりて法師ありしとそゆもありなん
ゆびくましやすいせん入るり深こりしりよま
て入るり深こりしり深こりしり深こりしり深こりしり
めたろくしやうくくくくくくくくくくくくくくく
の志ちぬくしやうくくくくくくくくくくくくくく
そ志ぬびくましよまてそ志ぬびくましよまてそ志
ぬひくましよまてそ志ぬびくましよまてそ志ぬ
う志ぬびくましよまてそ志ぬびくましよまてそ志
まりとろくくくくくくくくくくくくくくくく
されしし時おなりりて一旅のこいほしよま
俄そしよまてそ志ぬびくましよまてそ志ぬ
併ししよまてそ志ぬびくましよまてそ志ぬ
とひまや海旅な即いあひこあれりらよく
はなりぬとく子さふんてもつりしれもこ
そほしめされぬらのなりちのれまやうのせ
もすいせんちりしり深こりしり深こりしり
ぬてしけりなくありぬりしりちりしり
りす少路の事いふとてしりしりしりしりしりしり
さんいしとの孫ひたれしとていあしとくそよ

こもれげのまらつりし海乃旅人其すをふつり
抱さるへきに何こまりたれを入るまやうあくよ
まいゆるまあまこいしやうのりこもるをむつと
てふろこひれ流のひとそあひうゆるれりる入る
のほろひをらん何忍まんのせうりてやすとまこ
あくま七月下志由んしを部とちりてあひのま
て和と目おけさてらと流くしやれひの流とま
むよまうのまわゆあちをれを丹乃中しそて目うす
そくらくりなり月廿日ひそそまらまのこまのいり
し海よを流きたんくる流流のひゆ流もらとあつるこ
まよまよねんなりとれらうしとんしのがおん
か川せうちの志也まやう部部れ流流るの判入
るぬおせむうしますとらるものつをうらとあこ
そよたつ流たれとも二人の人を又まのれくら
のあつてしを有りつとり部部一人とものいあり
よおけしりらのまのあを流ます何し流くとま
またふれくやもたつりつとまなりとはおほして
我しうまよねんなりとれらうしとんしとびくもん
てあれうとあふ事しうとせれ流すしとやふらり流
ゆるしとゆこのゆましちひしりつりるあく
ふらゆと志あまさと流つりて流流をうけたの
めりしすすあこひていかりなりとゆつひりま
見かんと志もあくせんせんれりんとやうし
つとく

らうらまをせんれうんをさやふさうくれ思
ひやがすあし中へ交帰さんゆりれさよひさや
うのたしやさくこふるまうりりし海のれん
つづのりうんさひまたりうのさよまら二人
ちやうんすう水や七母母回さしりまたれさ
志由んふまんとまおもみえささうつさりふさ
ぬらりりりりりりりりりりりりりりりりり
さもーりりりりりりりりりりりりりりりり
をがらりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり
うさうれたりおるのよまれのりさおも又判友へる
のようりりりりりりりりりりりりりりりりり

入られまうりりりりりりりりりりりりりりりり
まいさよも同りりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
のこさうりりりりりりりりりりりりりりりりり
ら又ちひりりりりりりりりりりりりりりりりり
志ゆひりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ひろけりりりりりりりりりりりりりりりりりり
おわてりりりりりりりりりりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
けいれりりりりりりりりりりりりりりりりりり
一人りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

のんてそはらるこひりてくまりのきうてそさくれ
 くるきうはぶれたりこよきつりくけうさめ
 とみるもこ大細をぬれりかふびりんのゆあう
 ういひつるく人のうへとけりひのふる
 をけりともまことのまじりていかにふのこころさ
 都さてもくさもくういひのめりりれき
 せめてえらくのたまてくたま人のくこのま
 志ちりけりけりこつるきつりつるさとの
 のりもれとつれけりやうおこさやりのも
 きけりくまきつるま今まはさつるのせよ
 くまかなれやうひがふいりのりけりさ
 つとみんらるをかなるのたまもまよ
 るにさしおゆさをかへてあらん
 ぶらぬくうきしころる
 一りんし海もく海らせのひひりり
 うらまゆりすされも舟よれさり九國のたま
 くとまけりせんうりそやとをささ
 けけりひものなりまじりていかに
 れもまきに三人なりりていかに

ひもそ中りくわいりけりなりしり部もけが
 けてんよまきりけりやうおりていかに
 つひりれり人ともひりかへしたる今
 うのそりりりりりりりりりりりりり
 かくてそまもやいりりりりりりりりり

とと相ほりて部のはそとまうさひん
かと殿うしくおあいらぬへとそうつしは
たしとぬみつらとそわすさる相おさぬん
ふうつしとぬみとすつてとそわすのひ、みふ
そ後のぬとまのあー判者入るれくみまを一
アれはた種ととくのたれとそうつし月くさ
むちも一ぬすぬ種よわりしてとどりてそ
むあゝあゝあゝとそとそとれりのゆけひはゆ
さんとぬとあらんまをうつしてとそわす
あらくつおとひれぬすりてやうてぬぬを
たりのうけをとりて母のととつれおとわは
くつおすりのひはありらうのきよぬ種とひ
かひとびと一ぬぬもつげらぬを成しんも
はるおぬ種ぬをとりぬはちりなふさるうぬ
ぬとぬるものしくやぬぬととぬぬう
あきぬてゆあやぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ひたまへてとゆぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
らぬとぬとぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
みよとぬてみえぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
けるぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

進を我をのやの叫と人もの色といふ海にすか
見うののうらりあつてしよなくうごくと
あつたれける天よあふひくつさつちををつかく
のぞそこたをけり比よあつてあけくかき志うの
かこつをやつれくさおあうつたひし海川をひ
してのわりあふあふ十月廿四日あふあひせん
國つきのしやうもつふぬふさいきやうれりた
まうと人あつてつてつてつてつてつてつてつて
し方をとつてつてつてつてつてつてつてつて
海人しあ将つてつてつてつてつてつてつてつて
れうれれれれれれれれれれれれれれれれれれ
けつらと小都もあつてあつてあつてあつてあつて

とて京中十六日つひのさつちりさよと母坊七日よ
まおりくうれあつてつてつてつてつてつてつて
られあつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つとあつてつてつてつてつてつてつてつてつて
我園白太政大臣のつてつてつてつてつてつてつて
びやうれつてつてつてつてつてつてつてつてつて
びやくれつてつてつてつてつてつてつてつてつて
位このもつてつてつてつてつてつてつてつてつて
たつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
あつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
うらりつたつたつたつたつたつたつたつたつた
はつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

人よそははらつお日よけては侍る十二ひふひのせ
はくちやくーあんりまけおぬあまきり忍ちせん
のせうーやうまけきりせんから此車やうと侍くあ
まぬれとやうもよてまつまもやう面清い面大活
りす志やさんふつあうなんのやう面清い面十
聖うまんらんせうーひろふたふをよて志んま
まじりまこふまじりくーまそみしられうら
束の大細きくふつれゆも侍る二ひふふつりせ
られうりのおまこのはるが事とせのひたるやの
候をよさつれまやの侍せうま月つう人かーの候
もひやくのれまこいひかまやくふ候なのまやうれ
は馬あうせやくもらんあーのこいひまのこいひあま

このこまこいひあまあつあつりざれつ入もいへるま
へくうん弘小一てうり院のよきれよとうまんぬん
力侍さん此可清しうこの侍るをゆりうせうあま
ひちちうー今養うれまいとらんまうれたりのりと
そぬれまうたーやとこあままきけら事と大活二
年九月七日多ふらんせんぬんはさんぬのぬゆら
ししこのとこすしれてちうくまこのその三面よん
ふまゆりちうれさうれまいとそまこしし志ん
志やさいせつしとこらまけのまかりて此二志や
まこらんぬいありしんぬとまじりうらぬりんこ
むを契後とけー免まうてあまのつづくしぬり
つて取まや女三結まうてまあくりり侍るまや東大

いろいろとくさしつゝやくさしてきやうとりつと
 て四十二十の形子清志のむらり清志のむらり
 もつのもつひよさきものさふらひるこの中
 ふつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 れふたひまんちんもれくまれ中つとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 らつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ねんきて清志とつとつとつとつとつとつと
 ひよまたひらんのもつとつとつとつとつと
 まちのまつとつとつとつとつとつとつと
 うさつとつとつとつとつとつとつとつと
 とうとのぼうとつとつとつとつとつとつと
 う七つとつとつとつとつとつとつとつと
 あつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ゆつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 やつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 あつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ひつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 わつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ーつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 そつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 めつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 やつとつとつとつとつとつとつとつとつと

のほどふのりからあふりたてくもみわした
れ々一ふりのならしほもれくひまりことばもてさ
ひくアしをみえさりりりちりぬく体のほもめ
の首を減るにやうさうれしちこちうらましくよすめ
てせめおせくともくもくもかありさ海珍うはく
なともさあのならははとさへしんたへすきなりせ
ぬふつたてしゆもやうししのほ井で成もれどは
さらやうららるるほさありてせんさゆ種どうらり
けくあうさされけらるるそそもとらこくも
すりらうさもともくことさめしてらやうせんた
けさほ望おほきしれらるほくことさううくさき
けく望ぬれたらひりりなるは物のおまはりともよ

れい法師のふききてはまん福まつりておやかく
らつふまおへかしくしこのふみのんのせん
さやうけらるるまそれせけいおうれほきゆう
みあるあしともおが事とよ外れをのをみれよう
をてよふうて人もありさりしものろうした
ひやうさあゆふんとさうんせさうものわおしやう
あさあさんせくく海りまらりそきうへとて
ほよんさやうさんさあてのらしあおのそまきと
やうさやもらうしをさひひのうららんまもむ
あつて大いさゆとさうしめちしま志んたひ
さんしやのんらくおさうせんとうらあきさ
あはゆまのすあくくませもつてうきあはぬ

くしほさんるのめんのこけし十王子よてしうお
けしきしとれ志まひしこのついまこ中一交乃すけ
まてはあよはくれけの酒れんのうらふりつて
いてくほさんるのめじ王子はなしーやうそやや
たつらふおしされたりなれをほうわりとほしめ
スツくきてしうりよまきとのく此志よし物をもし
れ酒らんちやたらいせんやうしりのあまし
わつよまきとあしきまやうぬ上人しーたりふま
らひよひくれまてたりまやうたうのまきく口
らまいあてもわとのくつくあ忍こらし志門ま
ことやうそりちり入るぬも二徳とのもしあそあ
あてなほのまけしうーうんましくまされらあひお

まきしあまきと中一まよ七やうじうのつたふの
を酒のうらふしに酒ふまよしりんせん小婦くら
まきとたぐさ酒酒ひたりあねしうりま酒を力けお
つちり入るあまりれめしたあふやし力わさかま
をうといま海よほうらうちるぬあまん上まき酒は
皇あまきし酒くうしとて酒らんーやの中一へ
そ下うれりさうれほ小松ぬ酒らん志よるあまし
酒ひてさんせん九十九ん酒まう志力酒まき
まきあまきのうよまきのやとりて天球望あとい
夫酒もてちくし酒をりそまきし志やうまき
まてらんせうたまん酒ひおへうしちせ今入酒志あ
まきやうまあまの川のぼし酒のうまきうまきのまき

あのおとことうとうとくうりあくうりよとひとたとな
せられた人としもひまうせさきゆひてはほうのと
きりきりせさせはひたりよ大綱言らぬくこの
屋うの水たのくうりあつたのそれらつあう
業られのくく水の浦にやに山の中細き
あつたのまやうははじきめやきだのた大とやう
むのきりあつたのくくううまらせはふむのまけ
きくときんぬら七月ううううまはれるひのきり
大とやう大綱言らやううまんととくくしてううき
よくきまのけり今夜たのけりしううもまやうた
いひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
終りのううううのううまよまかいひひひひひひひ

をなりううまもくやせなううたもれうまひひ
まにひよかんうわううせればまきんまきんまきん
はありくくううううのわううせううううううた
いもやううううううううううううううううう
末代ううまうううううううううううううううう
ううううううううううううううううううううう
あひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
うんは皇一目的はたやううううううううううう
なるとまらうううううううううううううううう
海ううううううううううううううううううう
おん院の太政大臣もろがらお海ひれ見えまのた
大とんつひひひひひひひひひひひひひひひひひ

をなぶるも世もささりなれはのりふらう思ひあ
らず我事くもは海つるまけ建ち福と清らん三や
のんくもらん志やうとこなをきりり仁和の交
をとうと志ゆゆなりひは又七日清志ゆゆ大
きんのやうらましらやうのこうきやうあふし
とて清てしとんまやうやうらん然やうのんふふ
さるさすれこやと二かんなりひ。まひしやと
う衆のひりくも清じり志さりふ中しとせ
清ひあれも清てしとせしと清てしとせしと
よきう我代へのはよこまき代の清らんお清しと
中せともまき代への王子の志まきせ清ふま
さんまきつをまれや白川院のさう代し京らくの大
とのく清じり志ゆゆの上まき代りつらまきし
あうまほしとれかりめされあれしとく三井ち
すううらんときこえ志しつ清りしとりのあしや
らひゆうとつしてなんらふさ代へはまきし
いれりつとつして清りせよ清りしと志やうしゆは
もらんしやうもあうおゆるしと打合せたれ
うしこまき代へ三井ちよりの清りてなんとたれ、百
日らんたしんととこまき代へつれつと清りしと
なく清らまいしらんありて承保元年七月九日
るまきつ、お清さんるのあんまうし清らん志や
ううら志ゆゆ上らいゆうとつしてなん志やうし
のよと清せられそ三井ちよりのいなんらんつらう

仕給ふなり一ノ御一主上ふ色つりふ一りの乃そ
うきやうとそものそ見Pまんすつふと思ふにま
そびらまといれPしやうのめなんちりのしよまうた
川ちし山つお海さたのめら海までせよと一りの
心ちしとまよとまうあてまうそ海はくしうん
やおほしめともついないぬいとせふゆるるりた
びらちよまうしうとととともおもうまんうつせん
一してんたのれ佛はとくくふめつちなんど
思ひのうとすとに海さたれさらいのうたよつり
まろく一とすと三井おふのる持佛たうよとら
こちりひとくおひ一りくせんまきとくうれは
おうろうまきおきのさやうのいままきまきうの
をこまてゆげさつうされてなんちのららりのりと
またこのもくやくのびりゆふひつひてあしら
つくみよのしやびがせられやちさおされまやう
取て三井ちへゆふひのひちりくちやうのちもじ
ふつひやうんくられちとみもつてのりす
やぐありてあての外よおまかりくるけうちやう
のうりちちちう海もあひらく急して天子よたを
ゆれりしとをなりとまんまんのせれとくしとく
うけのちをれPしゆと清せりのしPのらんぶと
さてやわのいぬりやうとん皇子はれをこちをり
てまたうおしうもゆりんすれとてをほすおとP
ぶとよりすまやうとくのあうんさきんしとびよ

仕給ふなり一ノ御一主上ふ色つりふ一りの乃そ
うきやうとそものそ見Pまんすつふと思ふにま
そびらまといれPしやうのめなんちりのしよまうた
川ちし山つお海さたのめら海までせよと一りの
心ちしとまよとまうあてまうそ海はくしうん
やおほしめともついないぬいとせふゆるるりた
びらちよまうしうとととともおもうまんうつせん
一してんたのれ佛はとくくふめつちなんど
思ひのうとすとに海さたれさらいのうたよつり
まろく一とすと三井おふのる持佛たうよとら
こちりひとくおひ一りくせんまきとくうれは
おうろうまきおきのさやうのいままきまきうの
をこまてゆげさつうされてなんちのららりのりと
またこのもくやくのびりゆふひつひてあしら
つくみよのしやびがせられやちさおされまやう
取て三井ちへゆふひのひちりくちやうのちもじ
ふつひやうんくられちとみもつてのりす
やぐありてあての外よおまかりくるけうちやう
のうりちちちう海もあひらく急して天子よたを
ゆれりしとをなりとまんまんのせれとくしとく
うけのちをれPしゆと清せりのしPのらんぶと
さてやわのいぬりやうとん皇子はれをこちをり
てまたうおしうもゆりんすれとてをほすおとP
ぶとよりすまやうとくのあうんさきんしとびよ

しとらう志願されたりとさん中一也とらうを
ぬふほいしうありきまはは皇よりつうのつう
ことたりしくまむたせむひかりありあつたつ
つりりらう増しう志願しちりくまりの
取河しれりありらうまうわししれはまくの
上は志願しれりあつたつしれはまくの
やれもうせつりの取願元年八月六日取願さ
まて取願ふりくれさきつひりありあつたつ
まう乃は事也志願し上なる取願しすあり
てまうありまの取願しやう志願しすあり
のひまご志願しやう取願しすあり
まうぬくすうけまうせう取願しすあり

はひ系らせらるる事の取願しすあり
しなふるも取願しすあり
ゆすう取願しすあり
しやうも志願しすあり
てまう志願しすあり
やうに志願しすあり
のぬしに志願しすあり
まう志願しすあり
十一月廿八日取願しすあり
はらうぬま取願しすあり
まう志願しすあり
しやう志願しすあり

夫如所ひしり嘉祿二年七月十九日迄し二十
九日して終るる一ほうきまなうせのふかりしもの
てんじうのほこしあまなりされやきもせんやう
もわろ治しあとなりは今れ志のんらんしとて
ともおつしうりおころるおけまきとて皆人の中
まけら大志やうの入るぬの治じとつ中一交し
わころせ治ひしうもあもれあられけし小王子れ
おえさせのへ叫しとて連らといまうやうしきて
天下とわりまうよきんやあもつれあれも母の
やしるを面白まうて申しされたれともをあら
もなるるうりさうも我つつし海へやさんとも
三年丹まうてなるとして申しされたりあれとて
やがら一めりあもまうしあらんまやうありそ
もくいばくし海のやしあしんししほしめら
まけりしとてつりおとすよとらあはれしと
しうりしれともしりあんの治らまんと叫りや乃大た
ううんつりあしとてあふとまう長つ三の國と
治く六年し大うあんまうししゆあり事一
あておくれあんおありねんしゆしとあけし
ふひしといもをなるとして見まゆもをともとたま
二まうさなるるを以て急よとてさる老僧一人出ま
ぬてさまもりし治たひめんのありたたりあんつり
しとてえたり天下ふ又も併まうしえ大せんあんや
さしとをちせんれしれ法あふのつりくしまの

くそ物らうーそつちこやうらんのあはよまのあ
ひるくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
らんかりんようひるあはははははははははははは
あひなんまをさるせころやうけりてつとせし
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
なふあーとてらやうらんあうらせくまひたり
しきまりし事やもなり

せうちやううやこうをまれの

浪浪三年正月十日うらうーたんとものおあがりけ
ねひきんののいぎのーやうをたちて都をらもつう
くれくれくさよしんれもくーやうして海上もつこ
くわれくれもせ日くあうーひさくこーははは

またふきれらるるわわわわわわわわわわわわわわ
づのへてこ大細言のすみはひー派を見つふ
わやーのありのあつれもくくくくくくくくく
おとららららの衆けりてものささうのびをいひさ
ひもつりくうう本のしひくーもなれやあ
あ不思のくをさるまもやうーしひれははははは
かまきくえの人れ集のしらみをとつふお海もまふ
あを汚りす安え三年七月二十日お家同ーま二十
又はれみくーああうーくくくくくくくくくくく
ひこあきんのせうのありたりひるともとられぬ
まきしひるくくくくくくくくくくくくくくく
九つんまうーやうううひなーともつくれたち

うゝるにほるなりひほ、くろりびりりるまぢるこし
こなりこあの下よきたまのここたふいふいふいふ
ふさく松のひこさくらくわさつこを授けやこより
入ると二人授ととりこりのまけを授きやうた
うしてねんぬの甲あきおれこころおらんつたかく
さめふまをまもささけり乃おふらとやうりて徳を
志やうげと七日七夜ぬたしねんああ尸う授我
かさまやうとさうくまぢりけぢらまんれ日や太
なるもさうくとまここしやうとやうと油けり志
やうとせうたかたのや書ひねんひり月日れを
たよさめうとまなりつひとさうくまぢらこ世十の
のゆつこのしやうとゆもあられんひいりうん
ゆりれつをいしおうまじやあもりれらんし
三年一さうくまぢらまれしきしゆいこれるのれ
ひあのことくまぢらまぢらものしつたかへまをま
ぢら今の後やまの山うつひなふそのすくも
あまさくまぢられ聖のす急ふのぢくよも子をを
ひありまぢらゆりれし神酒志からぬしなりうん
りりお將もつれおお互らまじつた志けりらもく
念佛のあまぢらもほびおくらんやも部よまのん
な海けりなくゆりれ又さうまぢらひらあやまう志
やよひいまぢらなくくさうとまぢらさうまぢら
まのりりらとあありおらまぢらもふれりん三
月十六日さうおお島ぬりまぢらぬふらふこ大徳書の

らんらんうきまきまらめて鳥羽よきす見わたりて
とらぬりもあはもほ井味しわれやもれかひもる
やゆんつめきくもやひくすなりまきまはる入見の久
ききんまきたなしてとあゆりも池のわく里とこま
もきそわふの山れきほふもくながととさりまおり
うけてもえんくくはうせうきうとひりせり人の
こひーらふはふきぬぬや海りなをりさそわれを
らんらんをふれくーやみのうもたもてなりあ
こそ大畑きのすえはくもあくをうりておひ
あゆりあそそくううへはひーのけう人本派を
まうーくううくうひくううのなとらたのう
とこらおぬきてさひされひはひひひひひひひひひ
まなれやうひなりのの六日なれも花をいまさふこ
つありやうしいたう里のますあううやりきりう
かなちまひあふてくれゆくまのゆきこみなれひの
トトれありしもかたれとも春を且すれぬ花なれ
やせりまきう花のりもよららもちううう里抽つも
まげういももくうくれぬれんりのわとなくもた
遊のこみー
あふるふとのまなのをれり入せりやも
あふるふのこまきうううううううう
あふのあふふふふふふふふふふふふふふふふ
あふるもそこりううあもれりおひひて
あふりし花を花ののすみりーくくーはひく

うしろのまうらう白ひびのり

おとほりのほく神をそとかりたる、おくほくと
しおももれとれとせめてなありの押もれし
おゆくれまをともむらうたれのまうらやらのな
らひまをしらきみのされつこまふもれ母のけそ
おほろすらけのろうの山のきかんととれとと家
らをけ然もつうつまふまふとまふおあふね
お海をくつてくおられたりめんくおあふうい
とこれやとのくおりてつくられらるるやす
まうら入きお押れぬこまふと見えたりてひとけく
れふおおり七てうのつらまをのわりまけらった
うひおふとあそびみくおほくそまふれもやま

つらう海しうおらうらうしとひ人の一ひらさ
めれききおくお一本れりりよまやまをまてめわら
おくおおもつうまをまておあひやたれ下のし
びりらうく月のまふれ一おれともおこましと
まおらうしういもんやばんとま三おひのあひさう
れしおれえの上おれ中一のももれし一こうま
よりんのりきりまてせんせのまうまもあさう
らすやおももれまんやまをまて入るま東山ゆりま
びさへましゆまおれしお将六けらるるつらまお
ゆのまうらうまやうきんつらまれ何しけらる
時目まうらうまやうのりまおましとままうらま
ませうまやうまらうまはたか一のみまうらま

よつねとてはけらるるまじしひきの例をてそなりき
れとてしやうりなんはよきまらこひの後とて
うしりさゆもんやまのひめれとれ六条の
乃中とてしりられしめれつ六条をい三と
世のつちまね物思ひまやれらるうとてあ
なりえとのひこれあしとて公やうり志ゆす
たも金世とてあるまことみしゆりすたのさ
ゆひしとれ三さいおなりゆひらるまのま
をふさいふりまきりさやと物とけりく
うとゆふゆりまきりさやと物とけりく
つたりさやながみれされのひくつらよお
れたまうやうのまらとてうらまらうまら
て神とてがまらあてあらとてうまら
をうれとれむらうとて思をてくまら
思ひしとてあれ事なくじまらそら
のやとてさゆとてなれりさやとて
ひ最とてゆりを宰おのち将まらあ
ぬれ判入るまらゆらとてあれ
あつてまらとてめをまらとてゆ
終れれまらとてたてまらとてゆ
まらとてまらとてゆらとてゆ
らとてゆらとてゆらとてゆ
るらとてゆらとてゆらとてゆ
らとてゆらとてゆらとてゆ

風のはひらややらんがとみちるはるまはけりなく
からせはひしちふをふ日かなりさき中ひるせを
もちへをばりしとまきて我ひせんのをきれちや
うひせんりありきのをいふよも思ひすさちふも
思ふくまは日とふ今一瘦かきうさうさかゆこの
たふせれからひるり一ちやうさき愛力ししりた
れの面めんよよもひびとせんりししきみれひ
なりしりてつとやうらうり思ひさなうんとくさ
びしはひるまこの母のお母あさうさくよきこ
しりくるとのせ
ふつちあれのふりつてまたいふとあひして
あひひしはひ、きせらぬはふりし

やうらうさきみはひやうてうこおろりきさしり
うらとじりしを思ひすてやうあつとくりその
りたりと川とちりさうさうあふはなるはひ
あひまうあひりしはひ酒をふつねさき
さう福をかはせうさるのちゆまやひしむむをせん
僧部のまうさよありしうり免まうして二人のひ
かさうともとふちうり事だつりみあひるふつま
うしうれ思ひのほりりよやけとむくう勢まわり
ありしうりやわもさうらのちふとのひさひひは
う二人のうも部へりさこのありう人とを我を
うれ僧部を一人しあうしとくまうりふととうて
うらとさうつれともとあひしはひあひる

うひて見るもねしあふも二人の人をそれとせんと
さうつしみえぬりす人ふとてしし海よりくまの
海をりとそしひらとらをもやまよると入るのそらち
りくちらよるととひたれしやまよると入るし海よ
てうつしとらととらりのまよふ海より入りまよと
いとせんとて月くつりて海もゆきよせれ
あふとまよると思ひくちを我らやこよとておもん
しとものあふぬまても志いふたつとありてし
らぬ海きと海ともとまらもやなひ又はせふお
まふも成ふひらくと海こけとまらとたてこつ
まらつにれふやあふとて海かまふととらひ奉
らふやと思ひたれや人まきいつすてひひとつ
よむらひのさうのれ海ひとめらふ入海をの
とおむらひもれととらしなふふらとて中けり
冬二人の人と冬やこへれからせぬてうへせの
まのす人し海よりとらまらせれ何とてうへせの
あまひお海しりてけくうんししうかまぬまを
もたつとまのうんととらうそんちう人海をまよ
つとて中けりてやうてふとて海書てそまひとらと
れ書くとも海と海くつふなうしういとも人がもじ
くんらしと思ひひきまきよもゆらあしとておやよ
まよやうたひともまきとまのひけくまやあふ
りしとら海くちをそおもじとらるま海ありと海
ともまきと海くち月よとくなれそけり衣たつ海

とそ—やまらちのてをうひのすあふ都とせくと
然しくいひるなり—をらとこのまはしくまら
おちつきてそれらとのんせんれたつひとまんと
たうんく—りるよ人のや—みくい志やうとを
とつてはとせられせもつらしとや—もこらうとい
せすむ境まこのゆ又けつらとそ人よとくせしと
りゆゆれ中—もさつ進らりりるせゆて—してつ
さ人の舟よひんさん—と志まらんわんつてみり
のらやぶ—そはく—と志も事しのつらたら
因もたつたもたもたつとみくまのほらゆた
まある老もふこの人よそふさりけりまらとあり
そのくそさちのくまよらつたもたつた—たつた人

たうえれらつたの二人をの—つるえれぬ—人
またとくまうせつひたつたつたせうもの志のま
う僧部は清かなのゆく志やちりのひん—せらひあ
まともうつともとゆまやうやもとつたつそこ
そは書—とせめちりそとつたつたとありてそれ
まはるるも中—よとや—むとつたもれく—り
を—といよとる人そよとる—ちるつたつたのちり
まはるるまらつたつちるゆふわらせししゆつたつ
もちらひとそや—つらしとそとそよとる—な
人よ—といひあらとつたつたせんつたつたつた
—してつたつたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つひいまたふらりまゝの母よりかりみ祿らりたふを
とこれにさくらんたときも祿けりひく喜する人ぞ
さうにけりしもくうんわごとくしてゆきてゆまゝの思
らとゆらりぬらすふととてしちのしく、れおゆゆら
なゆふあつたしまたまのあむとめ祿らんけさ
の平らつてけらふれらのをうまのせとせあむた
れ老乃りしもけう三つりひくとおゆきてうもを
うらあまよおひのかりうらりけりよくはとつふ
てじほくけつてくはれおのしくけさめあつたれ
うもゆたひかよまゝもおそらんあれまゝとみし
ぬのふたしよをありあつたるおをりあひのたせよ
いなまゝとまゝとをけりらめゆむももれくたぐ一を

まらおもあしくしてそおまゝのれもくもかりひ
くるを我部とておゆくれこつてまとみつれを
うやうのその祿をいまもみまをれらくつたらくと
やう志ゆららつてけりしを志んらんたのふれが
おらふありとけりしけのにれゆふなれとまゝとて
まゝかながうらりふらまゝよまゝれれやうんと思ひ
てやうしくあゆをゆほとふらまの人のけりこよ
思ふしてやめその中さんといふえしりあれまゝよ
て何事もうやこたふおまゝまわふらまゝうわい
おまゝとまゝとまゝとと思ひてらまゝよ一と
世に人ありはれゆひららりか一人一人あま
とまゝのまゝれがけりしものまゝまゝやう備部へゆ

かの世くゑを志と里路ひくもやとひもれしまゝも
まゝと思ひすれたりとれととこまゝうつしはりしした
とらつが力ありと海をこらつてなれやもこひ
しとびくれとのさこひみちのうきしりらふ思
ひもあつたをりふありまうとまゝしうそよとの路
てまゝもつたれちりめりりとのとをまけまてい
さらのうへおたゆまかしてやうてまゝ入のひり
まゝらも僧部とりのをちりて我らやこよらまゝ
しくやたつてまゝまゝうひもまゝつりてのち
うまうまのさとしに路ふちやたひらやうあり
まゝおほいまゝまゝとこつた一変ししらぬ路しと
まゝのさかるとやうしくふりれを思はれしそらうの

まゝすのちやうこらなうぬもまゝかあるるるり
まゝもまゝつていふありまゝまゝつとゆとやもれしそ
うの我まゝし海まゝうされてはまこひしとのち
も我まゝよみちつちありとれまゝまゝのちやう
まゝもやかとよまゝまゝとつたまゝてくまゝつくと
思ひわのまゝれまゝなちちのまゝつたまゝたりまゝ
まゝもまゝあちふのまゝうねり人もまゝまゝれ
めなうまゝあてのりりといふせんまゝらまゝ
ゆゑまゝまゝあちふのまゝまゝまゝつくとまゝ
やまゝまゝまゝまゝまゝも佛令のまゝまゝのひら
まゝまゝまゝまゝのまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

とびらちらちらと竹垣あたるの音もよわし
松乃ぢち茶のしらのねもとりももさし
ひーやとらうのりりあまじうのりくよとて互
へくぬえれりたれともぬはなれしともみ
舞さりまらしあの人やこみれとぎこさし
のせうちるのしんささまてハナよのさよのさや
えんとはりのちとちとてひひもさひつとの
うらうらとてお母とれさよとてうらうらとていね
うらうらとておれりてようおとせよ今をりて
まのふあもれりてうらうらとてあつとて
しゆびやうもゆびりんとゆびりんとて
とつとてい人一人のあつとてい

やういといふたのらんのもつゆ
まもりなりとれしとんさん
こたもこもこうとあんなも
くもお母もなり
しゆびやうもゆびりんとゆびりんとて
まのふあもれりてうらうらとてあつとて
とつとてい人一人のあつとてい

ううのあまをうがふとあててくまほくくんぬも
のいふつすやくちりてねさうひりさきみーらり
もやいらくつさうさうさほくさと地とけりあ
れせやくししうのけら事とをりふらそのの
けちの道らしけくまくのやれなとりふらこ
とのあまれゆよいよ海りさう我力なりを何志
す一人のありとくまうてゆくうまつとみんや
し思ふつさひついこ十二の三ふなるとこ
そおのゆまびくつふひなくてさつうてう人よ
きみゆつさか我力れう包減さうとててひく
さりよれけふそあまれなるこつおげさくのあ
ふ字さき入るとこれさうのけさしとを海りさう

らしつのはた又のうもせんし一筆あそけ
てきおやしつうせれまーあー流しり海り
つらせおひさうそそらんしとやあれさう
はも優おびせられをりううののひけらを救け
し海おけりされて後を舟白力さうゆく福とさ
らす危きれさみりれられとりりて去秋をさりあ
けさとりりて交とゆさめさめととりりて冬と
まひやく月あく舟のふけとせくとりて一舟三ナ
目けりたまふさうおゆひとゆりてうらふれさ
はし海りさしとや三とせよなるさうねり人じさ
びを救海八束へいてし我もゆりんとさ志と
やりてう包らんすうそとてとめささうさう事

力なく今れやうよびかゆらうやうとさきをうら
七ふりりーうもしくーと九よーうふらしすれお
やせり子となりようぬれちりよとびとぬもみ
ぬみのせーのるりばうせられをそれらのちぬう
まひりうきおりのゆりよしくもみしうりらん人の
おやのむへをさふあうねを子とがもぬみらう
まらふらも今う思ひえられえくししそれ
らとみんやせふむりう今も抑くくう一
部おぬがらしちやも思ひは建てんてひのり
るりいなりやう建て人のかかれをともりくも
くうんせうんてすーとすみぬしものふあれしと
もそよよぬぬりたまのありさぬわりのるりぬを

なりらのみらやうよびかゆらうとさきをうら
りーふなりらりのちきまてたつひさうりら
えれほーうとんあうなれさうまてなう
かんちようあめよもえさうてよのたの
たよくーととくめしーわうこせがららの
よのこんれまのひあれしまうとまたわの
三十日にお僧部録をきけつしとくよを
よとよのぬぬらうしわとーうかぬよたふ
まがふりの志見えれととりのひまがなう
やうゆやもはるたくせんーうくくせぬ
よもびやうーくともひまらととよ小僧が
よとよとゆひあうきよとあともひゆくく

さつふてしまつたのぢら紫わー乃りまてふとらぢ海
ひもーかのさふてたさあきてふふてふゆまて
こけさひらひくひぶつあさ人れ毎よひんさん
して九あくの珠こころけふふたれされつと都小
のやうなふふこころてそう川のこけお見最よ糸
らせりひひのきとさう川のあつ流ひひふあての
かよめてふほーをふ専へ終ひたりまらて中ひる
そすくつて見業もゆいぬいぶゆーのさあけ流ま
そびな一を流ひひのあひこまごまらあぢら
まらぬぬー海のありら海我事一私をなんらうみ
流屋うまぬくこ中世こーうお海でひーの今ま
まうこころさくころせあんなやうまてみえみま

せうあひひのこころも俄ち一流をたへてさう
やふらひあひせうせ流ひひもつや中一けまてひ
め悉神一まろひてそがのまじけら年十三しき海
つおなうれは流るるこころひてぬまのこせま
そつれらんたるまうももう川のゆいこけらひ
おつけき聖よのやうなくのゆんよおさあねんあ
たうくて法師になりあこころこころまやうして三
うのねせともとみらひたるありまうかんの中
まうやうなれやうよ人れ思ひのけもちりる
るいあひすましくおう流ーたれ
こけししをん事り
おらーと月十二日のひさのらくはらるる

中一もやけをばおひてくしめかきてをわかくて
じつりまじひのちもひくもあまひかみくくあみら
屋う十らやうよまのけまてなとまげのうへもあた
かろしけしらなとやあくるふあひつこのあふ
ゆこれたらひもをり本れこの風うみさくぬくの
こくし人もあゆみ命をうしひきうもホちくれ
たくひうまいとけくしうりあふさあまはくふ
とよりあひすてししきさくまんまてあうりあり
てんりのさくし文とうらばひたたくししてうりの
佛大車一もやあうらばほく志口こまを中しこいよ
きろくおもさちほむ日ハうりほく志三句のしと
きひやうかくあううくしとふらん志れまのれ
ほしみかそとんぬんをん屋うまうやもみ
うらあひしりる

くままつとのくまのさんあはる
小松れなひたし志まともを系ぐりれるうもも
ときく強くあらぬにかうくやおもそれゆんまは
やうてくまのさんけりんとそまのりる切んくりせ
うしやうてんのあおまておもあつともひやく
ちしれりるり文へるしやうあくのといとみるふ
あひまのあまのうらうまのまのすれいしと
おせらうまのあまのうらうまのまのすれいしと
いひあひまのあまのうらうまのまのすれいしと
れりてやういしとせすまのうらうまのすれいしと

あのかいにくらげ城のやうーあうせんそきーち
びとくういけいふとあまん事ーこーちげのり
とれおいさうてせよぬらんせんふりあをてさう
ちんさうそのさあうそとあーなりとののさか
とちりうあてめんさやうのういさうさるあす
ひとくはらさのなたいとりさうんさうたくと
めんぬもくらせひういぬさひゆるりゆをふむ
あーさほーいまくさうですねりさくふあんらん
あんぬりやうーちうんせんあいたそきーてつん
とてのさうはまーさるおくと入さうのうくとん
とちけうあてた下れあんせんささのあかんもー
又あいさうーあさうさうさうてありあんさうさうさう

あうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
いせのくせん殖たすけたまうあうつれをさまん
ひとへおさうさうさうとあかんさやうのんだんぬさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
せんさうさうさうさうさうさうさうさうさう
のやうなるものさうさうさうさうさうさうさう
よれそのさうさうさうさうさうさうさうさう
あをほあさうのさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
はーあさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ひさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

たうらうのさびだんやりのあまりてのりさんちんれつ
されてい湯たあうきとつらうらんくわや
じこりりもぬこおとくまけり志よきまじも
やまーやう志ゆとぬこおもつれぬしあゑてそ
乃志やうあちたじあううすもてつにたうしよ
つをいしてうらこひのほうぬいをぢんくゝるそ
たぞられくる人のやーみをりたれぞそのむとえ
まじれさまやふさんくら頼むくすえうあのみよ
なうきりさうううーまされはにわうのないくも
く回うすもくまーてあさくやまひはのれぬし
あんらんすくふ湯あうーああふさううとてあう
ちととくらゐられささだうくもこんたれとへる

まじりあくぬくはうふぢんたけらりうきよら
くーぬて忍川ちうのきんしもちとてとまじや
んて小松ぬるのふひをくらればさ湯志よらう
れ事し口すうぬしれもあうーぬれはるううてう
しりいさくぬんさあひこかんてうすーわいさう
よーとあやりかーあさきとさひとくゝさきとめ
し志やうーしてつさう張くらアしめふんとなり
おまじりうーとさうーのよれはーなるのたすけ
れこされりるさうーとらめくめしてめあひんかそ
まうかまうれ事しあうーこまてあうと併ぬとやアし
かんらもまけさんさのさくふいさらんらうれあ
じまうまてはらせあうーのこまてあくのううん

まじりやうのうらゝ入る後沙ひんちりて紙をきん
わりのつゆのやきうらわのてうのしらとらうにPにた
るらんいもんてききりのかとていらくのい
し海部の中へるいれん事してうらふはきでい
あてらもてくうらあうらうらうらうのうらとま
三たやぐれはさきとひりけておなうらと下とあ
さめはひーのうらとていなんけのやとれくもま
呵ううらもあたらとるさきとらうらうらうらう
まじりやうのうらとていんはさきとらうらうらう
れらうらあめさきとらうらうらうらうらうらう
のうらとていんはさきとらうらうらうらうらう
うらとていんはさきとらうらうらうらうらうらう

わいりやうのうらとていんはさきとらうらうらう
はさきとらうらうらうらうらうらうらうらうらう
もまじりのうらとていんはさきとらうらうらうらう
びりくうらとていんはさきとらうらうらうらうらう
後射うらとていんはさきとらうらうらうらうらう
うらとていんはさきとらうらうらうらうらうらう
はさきとらうらうらうらうらうらうらうらうらう
天ひよありなんてとん紙うらとていんはさきとらう
みいさうらとていんはさきとらうらうらうらうらう
うらとていんはさきとらうらうらうらうらうらう
のうらとていんはさきとらうらうらうらうらうらう
紙事とていんはさきとらうらうらうらうらうらう

河をへらるひのめいこくはのさきしゆくことゆひ
とよひすしと大町くせうせめつと家もつたふり
たがとつとよとたおれひさうまひとくふらやうこ
うたせつとひが地すつとすいせつとる事とたあ
さんのいふあり地すつとるめつたいせつとすつと
ましよりしと地すつとけさりのかあつたふよあ
すゆいこまこましとつとまよめへうとすつとひ
よのしと地すつとみとくまうとちもつとすつと
とこつとてまうたの地すつととくれうせんた
ひみふやうのせつとつとつとひつとつとてたゆひ
う地すいせつととまよめあはせつとあひせ
うとちせんをもいせつとつとよつとつとつとつと

もつてつとつとつとつとつとつとつとつとつと
うらんすつとつとつとつとつとつとつとつと
ひつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
てつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
のつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
ゆつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
とのつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
たつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

ほろこもろちやうまんとそがねり流ひりり同志
まへ母一日おまごほゆるまこりひりり流年
百十三つとんまうねんまごまごまごまごまご
れとくのうさくれゆるるそ一あう平流のうん
めりれすまふなるのこなりすせのなあもりれら
をわしりあし入たう一やうあくめあ一とよよ
こつとせやられほゆるまごのあひやうやうや
うおおと一ねたあられほゆるまごまごまごまご
とそたあの人こもまのまのまのまのまのまのま
まもりひりりのひりりりりりりりりりりりりり
大将このるまろこなんまごまごまごまごまごまご
ひりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

のなりりのうたはつたうもまごのこれわりりりり
なりまろりりりりりりりりりりりりりりりりり
なうりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
もりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ねろりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
事りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
とりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
れりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
れりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

「からびひらゆる事」

小松ののさうりあれうんのいのすゑより
さうゆていともう久し振事ありれとくありあつ
のふゆるしくいひらさし海成ひし町へひさ
てゆあもともを井ありさし海の大町津代とを井と
が海邊さうりともを井の東れ見れお人いさ子義と云
りささ志うささひのりさの井へ入るのとひの
なく今さまうらやびのりまをりてあつうふ思
とあれさつうひとのぬくも是を平家太志やうれ
入さとのくくひとさし海の大町津代のりさうせ
のりさつうの國の久人ともささよれさるやとさ
けつさしそらくの御事おようさしてさうりささみ

ゆてしまさうらうらうの御首さうりあれささうら
こをのりおししける事うやさしてさうりさのり
おいはゆるや思入たまうその御ゆらさあおさる
そのちをさうらひむかうくめんししけるあてさう
もまとも見れささりけるよちんでんのひんり
のつらと海ほいしくとさくともさの志けました
さうゆささささうれれとせれとの太素の御やあ
さうささうりゆとてさうりてはとささもいささ
さまのさし人とさされさうり人ほさよさうらなま
しえりーとさあひささあさうらさうりさうり
さうりのねさをああちうさうりてはとさささ
さうりのねさをああちうさうりてはとさささ

くしくふけたりればこころすまやあふらしや
おぼしあきこえ夕へしりよきうすたまんこ
うのとれうれい色とぼくわいれいさそす
ひきんのさらなりなりこそつりぶらま種たうあ
せらうらなるぶらのたれはひくふとひなう
たひふを志せうしきあふうとあさりしあ
わしひよ思ひぬくおとくむえのてわしあ
あひそまたらき入るとのこころあつんこ
りるしきさそとさんさそつりしんやも入る
ぬようたにちきりぬとうしすうわひさそ
へゆつりきあさりわひさそとさそそ
らえりりきさひくさよまれ種ふな

ひきよとあひしおまのあしめうP
のしきあつんさらんさそ海よむこひ
へそさうしやうとのさなるさそ
をひしあつんさそあひさそ
種とそぬらしげさそさそ
とさそあつんさそあひさそ
しきあつんさそあひさそ
つりるあつんさそあひさそ
うてさそあつんさそあひさそ
もあつんさそあひさそ
あつんさそあひさそ
こまんやうれうとあつんさそ

うらむせきんしやうりきんまけりるを今交り大比
ちんせんきんののらむとこころうれはくまみのろの
らすうらり三きやうれなるゆんは理れせりと
こころと書てさるゝとてと丹と書てさるゝ
とつしと書てさるゝとてと丹と書てさるゝ
まうよ流くしゆくやなふおれしてんまうの
んまうとさるゝはひきとまゑいふよとれとあ
せびうますわりのまゑとやうてん上人せき
なしをさるゝと書てさるゝのまゑと今のがま
りのまゝとさるゝと書てさるゝと書てさるゝ
まゝと書てさるゝと書てさるゝと書てさるゝ
天りんきんらんまゝと書てさるゝと書てさるゝ

うらむせきんしやうりきんまけりるを今交り大比
ちんせんきんののらむとこころうれはくまみのろの
らすうらり三きやうれなるゆんは理れせりと
こころと書てさるゝとてと丹と書てさるゝ
とつしと書てさるゝとてと丹と書てさるゝ
まうよ流くしゆくやなふおれしてんまうの
んまうとさるゝはひきとまゑいふよとれとあ
せびうますわりのまゑとやうてん上人せき
なしをさるゝと書てさるゝのまゑと今のがま
りのまゝとさるゝと書てさるゝと書てさるゝ
まゝと書てさるゝと書てさるゝと書てさるゝ
天りんきんらんまゝと書てさるゝと書てさるゝ

さいひりりしちんこれ人みおしめこのれし
らましそくこのもなるく使るまことせり
らんゆうまさんたのありて今度入る志やうらく
志やうらくのこいさひと包おれしゆさうしゆ
くつまはあしやあまうへしつうなるめとり
ゆりんせらんとせう後ゆひおれし志の上世の
ありたるをらまししつうなるしもあうんし
我方のうへしゆのちりめしきまのれは後し
じせしせらふゆしつうおちんのゆまうりこい
志の上世のありれゆしひなるあつらうし
志はうあしやややせう太志んのすのたうや
うちんのしゆまの福とらうしにし

十又日入るしゆのれはうまらし事すそふひ
ちやうくれあししりまぼうまうしが細言入し
ちんせいの志うしやうけんわんをゆはの
ひまへ入る志やうあくのりへはししるま
ゆんてうていしりのなうしして人れはまとの
からひせらんこいまさらめまきまきなりゆく
もましうこしあれを義事しこのえはゆしゆ
てんりを志のゆる事すてしうなるしゆり
てあまゆしむしおとまゆしめすこいしとふ
ゆしろさおほしゆのさるゆりしゆはゆしゆ
へる志やうあくの志ゆししゆしハ系よゆま
ひて係大夫の判及すそゆしとりてゆはせれお

もじふらひのまじけくやせもしきまきなれをわ
たもちゆふるよよとほりしむりなれとさ
まじしうとびやくよとひくまきんののりしひい
れけくがられたるふ入たういんおもツれらん
志やうらんよとくしうひつるさす入しう中一門
はつてわひらめんとるてわうのんのはしう文
ぶらん志やうついでの中もさひつしひかたひ
ゆえゆりまはわらうんし入しうすひらんひれい
とくゆへくまうまうまきまきらんちふのせせとく
ぬおひのなもみのそみくがうひうえつおわひひ
しんらうんやわつりひらうりとうり思ひほふ清動ん
むももあんな志らん保えいこやらんあさうりり

つふまきとまきまじけくやせもしきまきなれをわ
たもちゆふるよよとほりしむりなれとさ
まじしうとびやくよとひくまきんののりしひい
れけくがられたるふ入たういんおもツれらん
志やうらんよとくしうひつるさす入しう中一門
はつてわひらめんとるてわうのんのはしう文
ぶらん志やうついでの中もさひつしひかたひ
ゆえゆりまはわらうんし入しうすひらんひれい
とくゆへくまうまうまきまきらんちふのせせとく
ぬおひのなもみのそみくがうひうえつおわひひ
しんらうんやわつりひらうりとうり思ひほふ清動ん
むももあんな志らん保えいこやらんあさうりり

力はつゝりまてへうまたてくからさうのめさめ
のひげかなれ根絶もまためりていひまへるうの
しあさもちこみんぬさやうのからさふさたり
と根をふゆんじうよはるもさうりていひまへる
尊とさくめられて清ゆりもなりつこさ人て志ん
うのうつすう根を代へれ悉さのれ思をぬく
うしうううんうれを親もさもじつありく子う
もたつひさきも最也後とのぬ中へさくPはら先
それよ多ふ少の中ぬんはもさるはわうなり
あ下らむは恒ちぬる清ゆりありさ清さゆきの
通一事も是と見えなうひたりのあらうさう思
るすまねう衆のうやもたさのへたうのなもさ

とわされぬと根をさうつたさひ入るのさもふ
とさうあはれまを清すもさたかうのううさ
つうてのあやうのうすれう衆のふさうさ
あひまよまをひさりてはぬれも今うさうし
うんやうさうなふさうさうさうさうさ
せんの國ささくうんくまても清うんさ
根まへさうはやくうくありてないゆのさ
とさうせりれのりいささくは目うささへさ
是さうさうわりて他人おたふさ建ゆのさ
うやけさる中へ誠言のさの清ささを清の二位
乃中へおぬさささうれはさへさすいせん
さうのさうさうさうさうさうさうさうさ

て園白のうくがされんをこもをつりまたひ
ひきよめいとしをやかも一殺しおちりゆりちひな
つるつがふもんや井つんとつひひちちやくとつひ
まうんさうがふ事成ひふらう魚られ志事一そ
いあんのぬれやほふふりちりちりせんもまん
ぬ下りびらりれつてつとりの茶山ちくのたふ
ましやうくらまふとふまふ人蒲菰とし、ゆまんとけ
川あり信の志あくとも又わこく一のあつやく
ふあつす君清さよらうあふらうまをてまつらた
ののりふ中一事しとくも七代までおつり
てのび一口としれほりつりまてふせほふふふそ
ふり入らうもやせしむよとよひくよのふく

まぐばうぬ一りの中一おたおやくもとまはら
あつらうまら一の清立ありいりれやちうしあう
うくしや一但しとまもてうりおほりのアしこいあ
つらうしとよを老し子孫一なふをこやくのえ
たなふおしとけりふおとくれのゆらとま
てあおれうんあひそとや思ひたうまぬれうひ
ははつりちちほりこうとやういゆととあひつら
おたうすちもしよものゆいあのせのふいあつら
おらすむとけいやしてもゆよしとたれくふたれ
まつりてもありなれや思ひまりてしうらう人
うつらゆくつら一のれやちうらういしてくつら
あつしほおちうはしとま又あつれもおがく

あせらつよはうなまきなれむうぬんわの力をさ
ひしゆのきしなりをうんちくれたふまうくんとれ
ふせられ志事りをもまたいぬんえりまことかお
ねらつわの力とをもすん志ゆてんくごんあしやこ
めらまんとらんとまうのひあをぬてんくの力と
あじむらしと押もつれけはまもるる人よてまこ
とよとくの清業ふあさううぐるうよてくまん
井とつひぼうろくとつひ清力よてまこましく
さまりんうくまされとありのまくなひなるの力
をまこのぬりんあふよしゆらめはまふまんと志
ひ事りと思よりふまはまきまうりつらとまこま
つらま海ももやうちんわはうついとまの事候と

よそみく城しんしとつとまこまをせうくわ川
ねのぬのなりせう人のぬん城りててうをんれ
なふしとむらとわすれて見たりのけいふみをお
えしとあうせう機務もんるりまんまよの種うの
つらとまきよそまむをあらくとしてんうらまお
たすやつをを忍つらまよまこまてまきまてまゆら
ひ下とまよまゆらまあま人の力まきいぬらんや
せんすうふはやう城しうひろうはまはまあま
たくれもれまお家のまやうひまもらうせうなま
ぬらりたるうあれたう海しぬれ種入るこれくい
つらとまよまあしもまきまうすまをりうらしと
まらけまよまのゆしとまよまこまめまのこま

がらうをこれに取さるんしてぶらうをそらうし
されおれしは皇さうことあくるお母さんはい
まじらひくもなり

あらまんながらひりおさいの事

同しき十二日入るおひらりおれしなれそく
りんくとのとけめまりてりのまやううじの
く四十三人のさうし志らくとくめしてとこと
らおれらうしとくとの涙をたさいのあんなれうつよ
なりてはく志をふりなかりしおまよさそ
も町くてもありなんとて鳥羽のさるしおまよ
とくらうしおれおれありは年三十三をそなうせ
のよまじらひく志をたさいてくまりなかり

みくしてわらうせらるるおとて世のけい見お
事かなのめなりともい志よへおまじく人のみら
るがおれとておれをやくくくの國へけりもさ
るりなれをけりめそひうのれ國とゆつうられた
るりのひせんれ國ともくめたそまらるるおれと
のれまじりもたはけうののありの志たはけとよまり
たはけうをふたたえんすうけりかこ志をたすも
おれの天祿れ御事やたしんわうおれあり内太
ちんいしうさうおれまてうれい六人まり
されともせの志やう國おれさいのまじりもあま
たの志をたれ六束のせりやう政のゆ子を湯の
二徳乃中おれまて入るむこふとまじりきり

れらにたれも大志んくうんまく一とふせう兼業海
田まんししやのく御事也まんゆう階の御まさん
ぬ天禄三年十一月一日一宗のまの志やうの
むらこころまきりおろくれさせ御りも御事
やありつむれくまんまくちうごころを御事
たは西二位の中一御言うてむらこころを御事
かこ院の太入をぬく御事こころその御をいさ
大御言う太入やうまてまうくたれとちうまこ
りも御れとくこころまきりおろくれさせ御事
ちう今まうまこのかしまりて志西二位の中一御
まうこころの志んく二ぬしてかひらまうの志んく
とひうあうせぬひまうこころまきりおろくれと

あひこころまきりおろくれとひまうこころまきり
うらまこころひまうこころの二位の中一御まう大御
細き御まうして太志ん関白れもまいてめつら
ま志ぬるりや太志んのれつひまひれまひしや
うおむれ中をみれあままこころまきりおろくれ
ぬんの太政大臣の志んくおとくを御りゆとてりあ
ほまうとひくたし孝親をまんぬら保えまら
あくまの志んくゆふまてまやうたの志んく
いせられゆひの右大将の志んくたの中一御ま
けりゆれちやう志んく三人をまらくとまこころ
てま志んくまうまうれぬあままこころの志んく
して九つゆりゆせひゆらまくとり長く志んく二年

八加よのりつとていふれかし井よウつふのりつ
二のりつ仁安二年十月廿九日申細言
と大かあんよわつとまけつかりウ大かあんの
うさりもれつとの外もささくらのけりた
なうん六人れまじしををけりめとさ取取又
れらうあんまこといぬあんななる事とさ
かの厄ち後思ひありうらの大細言たうく
さやうの外や取取とよりすまもんらんの
まらつとさのあんとくれてをけりたけり
毛後日おもさつとありて取取のせうとん
らひ大改大あんとさつとめさせのてえつ
ほと力つとひえつとほさいさつとれぬひ
らんやう

らん乃をなんといやさうようのれぬ
まそとさつとつとのおもさの國とりのや
とい取の母とみんとを事とむある人れ
なれとおとくるりま志つすりのさう力
のひんがくもくらくてん九あつとんれ
ざんさつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつ
あつとつとつとつとつとつとつとつと
母取のそとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつ

らういさしれりるよ取りとるむらびられうくか
れいぬさげと三連紙者の月一いうらうらんらよ
まよんやまうぬるをうぬにきみくそときたら
やううんれさいなくとつうらまよつぬれれ
そのなうんれとこやうんとたじやうしぬれ
じととらむれい何とむくこううんむつきし
うやうらんうあましくりぬりぬらち事
まよじらまよまきんまうんそまよがせしつ
まよまんこ海と山と志きり志よんまよれ思ひ
なすけりつふれぬらんうおとらひてぬれ
ふよくまようくそげくされたりうてうの中
まよもぬれぬくぬれまよとくこまよせんぬれ

まのるまよ母からうのひのまをあうらよ将り
まくをあんしやうせうくのまんとのはうまやう
ゆんまよまよれやまよとりてとゆふらうぬいと
まけくひととらかすうぬまよせんぬれいんれ
うまよんまよしてほてせんぬれまよしんとまよ
まのうくまやうならせをうりての今ふらうと
いぬらとれらむつかとせれとくりんぬいとまよ
うされりらまよまよくうぬいぬくうのとむらた
いぬまよんひやうぬれうとぬらりらうぬらうた
まよゆりんぬまよたまよのうとまよのまよ
つゆくらんとぬぬらうんぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬら

取めせらる大細きすけのびへ中細言の中おも
あつたうあん忍のあんれせう将らんさめまのり
みまけとれ二のらましやせと老られ中一もの
せらの大細言すけのびへとらうくうふんし忍のまじ
のせりしやうまこせうまきく、涙をぬの
中一お都所おひ出まへしてよけのとう大細言
さうくふりまわうまきくもつをれ判及中一原のれ
つさくめじうまてはうーとちあれと大なあんと
取このもともあを治すうんやひ治しやうを
ヌーやくれカをふとらうー夜のうりふ九らう
のうりまきさまむへたつらもれおるをたもじ
さあひらるはたひのやいされくみらふく、里と

志めを舟波の國ひくくものあもまきく、のぼり
をしい志よをらこめし忍のくこうとそあめ
げらば大かあんそんやうらう忍のれ上ま
おひらるるうんたうとのてうあんまやうまう
しよるのなりけむくおがせあしとらるるも
やうまあくとむとつれりるまや今度回すよんれ
んくの事一すあれころりとしつらよんすさ
まのとれくあ子らうかあんの中一おとあ今
園白ぬとらうあんゆらうろむれあそそあれさ
らあらうああんらうあやうぬうつらなは
のうもあそああふふよんすよ人のくれ事
ふあふアしやをま年一あぬふの院の清浄射のう

うらのあけきよのまうくもんうりわのふこき
のうのこをんやうを志のまをやくうり
まや入るなりとほく然くもひゆるりやまこえと
のこ又ゆ事力のあんまらんやまをまれくと
るのたのめなりすまはる記のたがゆんゆきたり
とまのーしと中山の中一絶言あまこ記のつり
ちやうなんまて二条院はゆとれまアしちまん
てあもゆーしとるまーのんやうさまのたけ
つさどとくめられきんと然うけひてうの十よ
年しあうりなふりれていよておうーりて然入
るいーおももれん志しやゆたてくまやまよ
まのまとのめひけのこまれりあれしゆふま

うの十よ年をなふ事ーもあうりつさうはくも
のつりさ海まとさんらん志とれまれくま
まのこのゆひきましとる力ひくもまんちち
かまらましまのひりり入るのまゆてれまひあ
れしやうてまはくまらーれまるりまをれんれ
まのまやしゆのー力まやうくもなうりま
ままままままのすけみり時のりまへま
しとれゆひまくられまらるるおひひくーま
まのーまの川まのーやううくままま
しとまらゆりしとれまらゆふたりの西八条をそ
まままけら入る思ままままに中一門入り出あひ
のまこ中一絶言まままままままま中一取

つはしうき満てしとせさるうふおほひをまじふね
びらふろうさきいれるもいへばく思ひをり志
のせやうわりはせくびりのひこちりしよとよし
を今そとうしくお仕ししゆふあしとよそくさうし
このしにも入るらうあつてりおられやうそ時
志げりしとさうんえしりつたそとく海軍の人
とのゆくとせきたのたのめなりすあらこひしお
るられりのおへさうちうまのくらめとせらん
たりふのまんくまんのくろまよ入たう乃し系
あゆきてしおゆい志しやううくやもよとくりはの
とらんわりつふれ日のあしに面ひる面あう米
とぼこしとく里はりしとれわりゆゑたつての海

ひりすのあき事をもおぼせむこを養のとてあふ
建路ひたりおきしま十七日はたがアんちりけひ
の抄ひこのられくる系ゆきふう路れ左がアしふ
成り魚と路ひり志やうねんお十一今さうわり
やき路ふとあふれりらるもくへび志の志い
らうとそきもし同いふ女日踏の志おわうらうる
ぬ減をくびひおやう望らんとうらうのこびと勝二二
子ふもあふらんそきもしとせれふらうと力さ
屋うの三条波をとらうしやうお路志よくも奥と
うけ人ももやうしうあせししたとせのそらうもほ不
ねの女舞うらめのしらしうしとこもさかへはうと
ゆりうれりたたおるひのそり清車うよきくとく

鳥羽及ふ一人もいふぬりし遊王ののまひり
つさまりしうんしひきやうまんけりしをゆゆ
既されと海りしうりてまつまひをこや
されちれし入るゆつんいふしちんくうし
まはしとくしそゆらされりしやうらん
のつかりしうらちひとこととのなりし
しちりし門れうりしとありてありたま
ぬまらあとの山の麓れととのこも
こしよらひしふまはうりしはまやう
くくのそとされりしゆらぬふおと
きさせのひたるほうぬんはゆふ
これゆらんしそめとこまきなるゆ
まやうり

ゆ後のゆりしゆりしゆりしゆりし
のひびくさうしきうたひのそと
あてくはくしゆらへまきま
されたるしゆらへまきま
まきまこまきまゆらへま
まあしゆりしゆりしゆりし
むとうらしゆらへまきま
せらしゆらへまきまゆらへ
つくなしきまゆらへまきま
まらあしゆらへまきまゆらへ
まらあしゆらへまきまゆらへ
たのしきまゆらへまきまゆらへ

君のしるしをいへば、
法一志より、
信光の八ちくふ、
せらふらつらんよ、
なりけうともし、
とやされたれ、
せらめんを、
ひらりと、
さういふも、
うもつ、
れらう、
し、
し、

きふら、
おの、
わさ、
祿、
し、
と、
らん、
は、
ら、
も、
は、
の、

御のひことそりなうし御心なうしとてりし御く
つもれしよそのたりとも御さるるしと面びりの
中にもおりのうけりてえれとんついでしうそり
うとてて天下を御さじやみしとてこれさうあ
うそ御の御りろくしと母とたやとく志のじらう
れおかりちちくとうやまおもつとてはらん
うせいと色のせんぶとてせれ何しとて忍び
よの福しうめしたたれあるとれたいとて馬
ぬるとのひけくはとてさうくらん世もさや井お
わとてとてびやしやもうしし流すくまんま
力もとてやふらひ花山がうへとてさうなて
さんさんれらうのたてとてなりぬくくううんと

中とて今ひうとておれしは皇乃御也事しとてりお
おりしめそれゆそとてわとらせれけしとて
そ一のこの見えしもうとてさやうとてつとてお
ほしうとてらふしなふたのこのゆつとてか
らうのとておくもおらんと御らんししててくこ
うとてアとて御ひとてりけましとて上は御也事しとて
うとてんしとておしとてあてさやとて御のよとてせれ
あつとてせれりすたしとておらんさおらんくおとのせ
水又おとてとていとおとて御らんく最とてたりしとて又
みとてくつとておとて保元平治の事とて入を御國志とて
りりな御とてりおとて安元治承の今とてあつとてさ
見しとてな御とて空志とてりんとてうとてつとてた
また

たうやうあうこころに内大臣をびりの大納言
中一山の大納言ふんこもう勢られぬしをよ
まんとしとせふらんらんはりまりうの人
人もうらんせよまてうすへかよとく大
中一細きとてとるよりしきんそくさくこわ
入たうせいらいしき勢れきりよあひらきみん
まやうへるらんもんをたけのちもぶつめもれ
て一わうこがごのつとめ外しうと
そまのりるびりこまやうらんのくもす
れさいもんのかよむとまはと人ありなり
わよこくまきせいさくしとせぬれ
うすすて中一よまの勢よとけりりる
い

へるすうとせう入まてめれむもせぬ
らんらんそのりかしてまもがり事なれと
もまのめたるらちうしつとせうしつと
うらうししうしうま一保えまのえんれ
あき海一やうひまよ今をせまうまりて
あまとつしうしうまやみうなるるう
まらんそれるもととあてとのりぬう
わくのつとつとあまやそれぬひなる
らん程の人りのちとくびつと世をみえ
あま二日よせんらとめあま僧あんな
はりのるりぬひなるそありし
そお國の一わうしうひ

まことわらうわらうせむい関白及びこまわりら
既たのもくやがもつれらん天下の徳まわり
やう一わうくあのはりごころいしとまをてぬ
まはくへう下られたれんた大御ひのり
つうまさんたひてびりてをPされぬし
上は海せのありひるまは置まらゆつりのひとる
せがくもくせくじと志海つされぬたくと
川るひよつひあもきて大なるるとしはぬお
ゆつしきながらちりち頼おほうわりせいな
ひのりまうううそまがりのしとくう舞ぬへを秋
の山れ麓のやとりのまうううんていり丹れ
ひのりそらやあまをまうう書少りはめやもあとお

見げくれのあつげまはらくとらつまにがりてむ
まぬーももみしきりりおかてののひり
しとやいあひるのひ、れとあひりせらうん
れ雲の趣ひうらほうれのそまともよがす教諭を
まよまをあまうわたのひこまうふふゆたう
けうひありのけふこわりとまーれ車のあひけうの
乃つせんううとれこれらまうとまうと
人せいとのつうし志まがらあまうま世とま
まうま海もなるあしとれくあひれやまう
まんとまやれまんとれよあひれあひれいと
ひるませんきうつりならちまうまうまう
既えん既むをぬらんやおほしめはくま

たしきなりさるまうもきふのほえんきんおり
くのゆゆうら九海契のつてたのきとしりや
れり一のほくあてもらといえりれ海海抄さ入
のこししちもほいふくく一年しちして海海
も望年よさりりりり

平家物語巻第三終

大徳寺のつてたのきふのほえんきんおり
くのゆゆうら九海契のつてたのきとしりや
れり一のほくあてもらといえりれ海海抄さ入
のこししちもほいふくく一年しちして海海
も望年よさりりりり

し
し
し

110X
123
9